

保育施設長もイクボス宣言

広島県連盟連合会の45施設

広島県保育連盟連合会に加盟する保育所、認定こども園など445施設の施設長が6日、育児と仕事の両立を推進するリーダー「イクボス」になる宣言をした。保育士が働きやすい職場づくりに向け、ワークライフバランスを重視した働き方を推進する。

県庁であったセレモニーで、連合会の小川益丸会長が「生きがいをもちつつ働き、私生活も楽しむ環境づくりを進める」などと宣言文を読み上げた。連合会は、政令市の広島市を除く県内22市町の施設が加盟しており、全18支部の代表者も出席した。

全国でイクボスプロジェクトを展開するNPO法人「ファザリング・ジャパン(東京)の安藤哲也代表理事と、湯崎英彦知事も立ち会った。安藤代表理事は「保育士が輝く職場をつくり、希

望を持って保育士を志す人を増やしてほしい」とエールを送り、施設長たちを前にした講演で「無駄な仕事を削る業務改善が必要」などと助言した。(樋口浩一)

「みんなで減災」の 推進大使8人表彰

広島県知事

広島県の湯崎英彦知事は6日、災害死ゼロを目指す「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の推進大使を務める、県内の放送局の気象キャスターやアナウンサーたち8人に「ベストプラクティス賞」を贈った。

中国放送の岩永哲さん(38)やNHK広島放送局の勝丸恭子さん(36)たち8人。授与式で湯崎知事から

湯崎知事(右端)から表彰状を受け取る勝丸さんたち推進大使



表彰状を受け取った岩永さんは「放送局の垣根を越えて役割を果たしていきたい」と力を込めた。

8人は2015年7月に推進大使の委嘱を受けた。番組の気象予報コーナーや県内のイベントに参加して防災の知識や心構えを県民に伝えている。子どもが楽しみながら防災を学ぶクイズの作成やマツダスタジアムでのPR活動も考えているという。

県は11年に同賞を設け、課題にチャレンジして社会

により変化を起そうとする職員を表彰してきた。今回初めて、職員以外に授与した。(根石大輔)